



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 11

(2022年1月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

ニッサン HR 型自動繰糸機の原動部

繰糸所^{そうしじょ}に入ると、動くことを止めた大きな自動繰糸機が、静かに来場者を迎え入れてくれます。鉄製の^{くたい}躯体上部には、丸い緑色の糸枠が整然と並んでいます。糸枠は回転する軸にセットされ、作業時は生糸がくるくると繰られていました。この機械は昭和 40 年代に据え付けられ、機械の原動機は電気モーターでした。

入口から左側 2 セット目奥、機械の端に原動部を見ることができます。パールグリーンに塗装された原動機には Toshiba と刻印がされています。大きな機械を運転するためのスイッチやクラッチが、この周辺に集中してあります。1 個の電気モーターで、480 個の糸枠を持つ全長 32m の機械 1 セットを動かしていました。動力は、大小の歯車を介して回転力を変え、方向を変え、仕事をこなす各部まで伝えられました。

1987 (昭和 62) 年の作業停止時まで動いていた繰糸機の歯車とチェーンには、今なおメンテナンスのために注油された機械油が残されています。



電気モーターや変速機を備える原動部

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

